

Mucosally Expressed Cytokines are Associated with the Esophageal Motility Function

深浦, 啓太

<https://hdl.handle.net/2324/2236058>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



KYUSHU UNIVERSITY

氏名：深浦 啓太

論文名：Mucosally Expressed Cytokines are Associated with the Esophageal

Motility Function

(食道粘膜に発現するサイトカインは食道運動機能に関連する)

区分：甲

論文内容の要旨

協調した消化管運動は生命維持に不可欠である。様々な原因で惹起された炎症は消化管運動を障害し、様々な消化管運動障害に起因する症状を引き起こす。多くの基礎研究にて様々な炎症で惹起されるサイトカインが消化管運動機能に影響を与えることが示されているが、臨床においてサイトカインが実際に消化管運動機能に及ぼす影響については解明されていなかった。これまで実臨床において消化管運動機能の詳細な評価は困難であったが、ごく最近、高解像度食道内圧検査 (High resolution manometry; HRM) の登場し、ヒト食道運動機能の詳細な評価が可能となった。本研究では、食道粘膜に発現する各種サイトカインとヒト食道運動機能との関連性を検討した。全体で 57 例の食道運動異常症が疑われた患者をエントリーした。HRM の診断は、正常 (n=25)、アカラシア (n=10)、食道胃接合部通過障害 (n=10)、遠位食道痙攣 (n=5)、無効蠕動 (n=5)、無蠕動 (n=1)、およびジャックハンマー食道 (n=1) であった。疾患ごとのサイトカイン発現の比較では、食道胃接合部通過障害は正常群と比較して、食道胃接合部における TNF- α の発現が有意に高値であったが、アカラシア群ではそのような TNF- α 発現高値は認めなかった。これまで食道胃接合部通過障害はアカラシア類縁疾患と考えられていたが、線形判別分析を行ったところ、食道胃接合部通過障害はアカラシアおよび正常から有意に判別された。一方、食道体部の収縮性は IL-13 および IL-23A により予測され、食道胃接合部の基礎圧は TNF- α および IL-6 により予測された。これら結果から、基礎研究の結果と同様に、粘膜内に発現する特定のサイトカインがヒト食道運動機能と関連することが明らかとなった。これらのサイトカインは、食道運動異常症の診断および治療の有用な標的となり得ると考えられた。